

◆九州交響楽団現状（聴衆として）

- ・7月17日より定期演奏会を再開

演奏者の間隔を広くとっています。弦楽器の譜面台は1人1本。

アクロス福岡での公演は定員の半分、左右、前後1席ずつ空けています。

曲目を減らし、演奏時間を1時間（休憩なし）としていました（7/17公演）。

観客の入場時 検温、手指の消毒、チケットは観客本人がもぎり、プログラムの手渡しはなし。

観客の退場時 出口が密にならないようスタッフが誘導しブロックごとに退場。

- ・今後、合唱を伴う公演は合唱無しの曲目に変更しています。（復活、第九等）
- ・現在、公演の演奏時間は通常（2時間程度、休憩あり）に戻っています。
- ・本日9月5日15時からの公演を聴きに行きますので、最新の様子をご報告します。

◆福岡ジュニアオケ現状（指導者として）

- ・参考資料 「練習の流れ」(PDF)

- ・6月21日よりパート練習から再開しました。

・合奏練習は広いスペースがとれるアクロス福岡のイベントホール、シンフォニーホールを使用し、演奏者の間隔を広くとっています。

・弦楽器 譜面台は1人1本

・管楽器 演奏者の前にシールドを設置（合奏練習時）ホルンは全面とベル側2枚。

- ・8月30日(日)に予定されていた定期演奏会は1月5日(日)に延期しましたが、指揮の下野さんの発案で8月30日に保護者向けの試演会を行いました。客席は九響と同じ間隔をあけました。

◆報告書に関して

4. 実験結果に基づく考察

5. 「演奏中の飛沫の対策」以外に行う感染対策について

以上の2項目がリハーサルや公演を行うためのガイドラインの参考になるかと思います。

※1. 実験目的 2. 実験概要 3. 実験結果 の3項目は各自読んでおいて頂けると助かります。

5の項目の執筆者である**縣智香子氏**は吉浦の個人的な知り合い（山口県出身）です。

このミーティングで出た意見や質問をまとめ、それに対して回答をくださるとの了解を得ています。

また、九州交響楽団の事務局やステージマネージャーにもアドバイスをもらえるかと思ます

◆編成に関して メンバーがそろわない場合

フル編成の合奏ではなく、出演可能なメンバーで小編成の合奏やアンサンブルの組み合わせでも良いかと思ます。

◆リハーサルのやり方

一番の問題はリハーサル会場の広さと換気です。

福岡ジュニアオケのやり方を参考にして、休憩・換気をこまめに入れ長時間にならないよう工夫すればリハーサルは可能かと思ます。

吉浦 勝喜